



CHALLENGE CHANGE to CHANCE !

校長 小林 勝喜

この1年余り、我々はコロナウイルス感染症への対応に追われてきました。この世界中で猛威を振った今回のコロナウイルス感染症のように、ある病気が世界中に流行することをパンデミックと言います。これまで人類は数多くのパンデミックに見舞われました。黒死病と言われたペストは14世紀にヨーロッパで大流行し、人口の3分の1が亡くなったと言われています。16世紀には天然痘、19世紀から20世紀にかけてコレラが、そして、ちょうど100年前にはスペインかぜ（現在のインフルエンザ）が発生し、死者は5,000万人、一説には1億人に達したとも言われています。人類はこうした大きな困難に何度も遭遇しながら、それを克服し生き抜いてきました。我々は、今回のコロナウイルス・パンデミックも必ず克服し、乗り越えることができると私は信じます。

これらを振り返ったときに特徴的なことは、パンデミックが起きるたびに社会が大きく変革したということです。それは歴史が証明しています。つまり、こうした感染症の大流行は、人々の考え方や行動様式を劇的に変えるきっかけとなり、世の中の大変革や進歩、社会の改善につながってきたということです。我々は今、コロナ・パンデミックとの戦いの最中にいます。と、同時に、社会の大変革期、大転換期の最中にも言えます。コロナ後の社会の主役は間違いなく君達若者です。変革期にはチャンスの芽がたくさん転がっています。それを生かせるかどうかは君達次第です。この変化の激しい社会を生き抜いていく力をこの山商で培ってほしいと思います。ここで、1年前に策定された本県の産業振興ビジョンの基本目標を紹介します。それは、「CHALLENGE CHANGE to CHANCE」です。

世界が、そして日本の社会が大変革期を迎えています。そして本校もまた大変革期を迎えています。ハード・ソフト両面にわたる新しい学校づくりが進行しています。山商の大変革期の主役は、言うまでもなく在校生の皆さんです。失敗を恐れずに、この高校時代に様々なことに挑戦してください。「CHALLENGE CHANGE to CHANCE」は、皆さんに相応しい高校生活の目標にもなる言葉だと私は思います。

長岡愛海（1年）競泳日本選手権7位入賞！

4月5日、本校1年生の長岡愛海さんが、五輪会場である東京アクアティクスセンターで開催された第97回日本選手権競泳競技大会の女子100M背泳ぎに出場し、見事第7位入賞を果たしました。この大会は、東京五輪代表選考会を兼ねており、池江璃花子さんや萩野公介さんらが五輪代表に決まった注目度の高い大会でした。初めての出場となった長岡さんは、準決勝を自己ベストに近い好タイムで通過し、決勝では優勝タイムにわずか1.26秒差の自己ベストタイムで泳ぎ切りました。

大会に参加した長岡さんは、「オリンピック予選ということもあり、緊迫した独特の雰囲気の中で、予選は緊張して自分の泳ぎができなかった。決勝は社会人や大学生といったレベルの高い選手の中でも落ち着いて1本泳ぎ切れて、いい経験ができた。この経験を生かして3年後フランスで開催されるパリオリンピックを目指して、さらに充実した練習を重ねたい。」と話していました。今後の活躍と将来のオリンピック出場を大いに期待しています。



生徒会スローガン決定！^{かなえ} 鼎 ～新進気鋭～



生徒会スローガンが決定しました。鼎とは古代中国の三本足の器物のことで、「地域・学校・生徒」が三位一体となって山商を支えていこうという意味が込められているそうです。また、新進気鋭は勢いや活気にあふれた様子や意気込みが鋭く将来有望なさまを表す言葉ですが、コロナ禍のなかで活気にあふれた山商をつくりあげるとの思いが込められています。16名の令和3年度前期生徒会役員の皆さん、よろしくお祈りします。

2年ぶりの地区高校総体開催！山商生躍動！！

コロナ禍の影響で昨年度開催できなかった地区高校総体が5月8日・9日を中心に開催されました。対外的な練習試合等が例年に比べて十分にできない中での実施となりましたが、以下に示すとおり山商生は各種目で大活躍してくれました。



《団体》

- 優勝** 陸上女子（学校対抗トラック）、体操男子、体操女子、バレーボール女子、剣道女子
- 準優勝** 陸上女子（学校対抗総合）、陸上男子（学校対抗フィールド）、陸上女子（学校対抗フィールド）、バスケットボール女子、ソフトテニス男子
- 3位** バスケットボール男子、卓球女子、ソフトテニス女子、バドミントン男子、剣道男子



※レスリング競技は地区大会実施せず

《個人》

- 優勝** 佐藤礼（陸上男子棒高跳び）、清野康介（同やり投げ）、高橋亜珠（陸上女子100m）、吉田愛（同400m）、山口鳴未（同800m）、高橋亜珠（同100m障害：大会新記録）、荒井りさ子・高橋亜珠・桂佳恵・吉田愛（同1600mリレー）、設楽愛理（同棒高跳び）、斎藤愛香（同三段跳び）、柴田悠希（体操男子総合、同床運動、同あん馬、同つり輪、同跳馬、同平行棒、同鉄棒）、菊地くるみ（体操女子総合、同跳馬、同段違い平行棒、同床運動）、安藤咲那（同平均台）、鈴木望愛（剣道女子個人）、原田奈乃羽（フェンシング女子個人フルーレ、同エペ）
- 準優勝** 井上広大（陸上男子5000m競歩）、渡辺壮大（同走り高跳び）、石垣朱里斗（同800m）、吉田愛（陸上女子800m）、狩野実香（同400m障害）、山商女子（同400mリレー）、上村栞凪（同棒高跳び）、片桐莉々花（同ハンマー投げ）、小関和也（体操男子総合、同床運動、同あん馬、同つり輪、同跳馬、同平行棒、同鉄棒）、大山雛（体操女子総合、同跳馬、同段違い平行棒、同平均台、同床運動）、成沢元太・松田康太（バドミントン男子ダブルス）
- 3位** 清野康介（陸上男子砲丸投げ）、根岸智陽（同円盤投げ）、斎藤愛香（陸上女子100m障害）、村岡さくら（同棒高跳び）、山口あすか（同砲丸投げ）、大泉仁虎（体操男子総合、同床運動、同あん馬、同つり輪、同鉄棒）、飯沢貴文（同跳馬、同平行棒）、安藤咲那（体操女子総合、同段違い平行棒、床運動）、晋道茉莉（同跳馬）、菊地くるみ（同平均台）、鹿野久深（剣道女子個人）

